（別紙4）　　令和　　元　　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2394400010		
法人名	特定非営利活動法人　和		
事業所名	グループホームじぶんち		
所在地	愛知県知立市谷田町南屋下88番地2		
自己評価作成日	令和　1年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2394400010-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和1年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームでは、入居者個々の個性や人格が尊重され、その人らしい生活を継続できるように支援をしている。入居者一人ひとりの「できること」「楽しめること」に目を向け、家事活動、余暇活動一覧表の更新を定期的に行い、より豊かな生活づくりにつなげている。今年度はおやつ作りや図書館の本を自分で選んで借りる等、日々の楽しみを増やすことに力を入れている。また、毎月ホットプレートの日を設け、五感を使って調理を楽しむことで、「食」への関心や楽しみが持てるように努めている。意見交換ページやヒヤリハット報告書で小さな気づきを出し合い、メモ用紙やホワイトボードなども活用して、情報共有を確実に行えるように努めている。今年度は、24時間シートをケアプラン作成と連動させ、入居者の生活状況や変化をより細かく把握しするよう努めている。職員は積極的に内部研修や外部研修に参加して、スキルアップに取り組んでいる。職員同士で声をかけ合い、入居者に対するより良い関わり方を見つけだせるような職員関係を築きながら日々、実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームでは、毎月、複数回にわたる職員会議の機会をつくっており、利用者一人ひとりの意向等に合わせた支援を行うことを目指しながら、職員による支援内容の検討が重ねられている。職員会議の際には、職員から専用の提案ノート等も活用しながら「検討してほしい内容等」の意見や提案を出してもらう工夫も行われており、職員からの意見や提案を利用者の支援やホームの業務改善等につなげる取り組みが行われている。職員の資質向上の取り組みについては、法人全体で行われており、毎年度の理念の振り返りをはじめ、年間を通じて様々なテーマによる職員研修を実施している。また、地域の方との交流にも積極的な取り組みを継続しているが、当事業所の新たな取り組みとして、法人の同一建物を非常災害時の福祉避難所として協定を結ぶ取り組み等、地域貢献にも取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	内部研修等で、法人理念等についての話し合いを行う中で、全職員が発言できる場面を作り、理念を共有して実践につなげている。繰り返し会議等で、どの項目に基づくものなのかを話し合ったり、理念や基本方針等に沿っているのかを確認している。昨年度、法人理念等の見直しを行ない、職員指針を変更した。	運営法人の基本理念をもとに、職員指針及びホームの基本方針がつくられており、職員が年度毎に理念の振り返りを行いながら、理念の共有と実践に取り組んでいる。また、理念を玄関ホールに掲示し、家族や地域の方にも知ってもらうように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の行事等に参加したり、法人内の行事に地域の方々に参加していただいている。野菜をくださる地域の方々が年々増えてきている。町内のサロン運営にも参加をしている。今年度は入居者の方もサロンに参加をされている。	地域の町内会に入り、併設事業所とも連携しながら、地域の清掃活動に参加する等の交流が行われている。また、地域貢献につながる活動として、「まちかど運動教室」の会場として開放、法人として「福祉避難所」として協定を結ぶ取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事などに入居者が積極的に参加し、理解してもらえる機会は増えている。運営推進会議や町内のサロンも活用して、認知症の人への理解を深めてもらえるように努めている。今年度は、認知症カフェの運営や建物内でのまちかど運動教室に参加したり、福祉避難所の協定を結んだ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用状況や行事等の取り組み、ﾋﾔﾘﾊｯﾄ・事故報告書の提出状況などを報告し、話し合ったり、助言をいただいている。会議で出た助言や要望等については、その都度、対応するよう努めている。	会議については、併設事業所と連携しながら開催しており、出席者に事業所全体の運営状況を理解してもらう働きかけが行われている。また、家族の参加についてもホームからの働きかけを行い、出席が得られるような取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは一ヶ月に1～2回程、市役所に行った際、現状を報告し、助言をいただいている。運営推進会議の案内や議事録も出している。	管理者は、市の担当部署との定期的及び随時の情報交換の機会をつくり、ホームへの運営に反映する取り組みが行われている。また、市の介護相談員を通じた情報交換や地域包括支援センターとも様々な分野で参加及び協力する関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員で身体拘束の研修を行ない、身体拘束をしないケアを常に意識しながら支援している。ヒヤリハット報告書の提出を推奨し、必要に応じて会議等で検討するなどして職員間で情報や対応策を共有している。今年度はスピーチロックを含めた不適切な対応について検討をし、方向性を確認をした。	併設事業所を含めた事業所全体で、身体拘束を行わない支援に取り組んでおり、職員間で言葉による拘束に関する意識向上等、職員による対応等を振り返る機会をつくっている。また、身体拘束に関する定期的な検討会議や職員研修の実施も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	職員全員で虐待防止の研修を行っている。普段から入居者の言動や様子を観察して、職員同士で情報交換と共有を行っている。検討したスピーチロックを含めた不適切な対応を念頭に置き、常に職員間で適切な対応ができるように意識して注意しあっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修等で、権利擁護について研修を行なっており、必要な入居者が現れたときには速やかに対応できるように努めている。日頃から、新聞記事にも目を配ったり、掲示したりするなどして、活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結の際は、専門用語はできるだけ使わず、入居者や家族が理解しやすい説明を行うように心がけている。不安や疑問が解消するまで十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情申し立てについての説明を行っており、日常的にも意見や要望をくみ取り、運営に反映させるように努めている。年2回行っている家族懇談会では、現場職員も参加し、家族の思いを直接聞く場となっている。また、家族同士も交流できるように努めている。	ホームでは、年2回の家族との交流会を行っており、家族との交流の機会をつくっている。定期的に管理者と家族との面談の機会をつくりながら、家族からの要望等の把握が行われている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や朝の打ち合わせ時等、意見や提案を伝える機会がある。必要に応じて、それらをどのように実践するかを検討した上で、反映されている。意見交換ページやヒヤリハット報告書等への記載を意識的に行ない、実践に結びつけられるように努めている。	職員会議を月に複数回実施しており、職員間の連携に取り組んでいる。職員から提案を出してもらう取り組みを継続し、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員との個別面談の取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日常的に、個々の職員とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図ることで、状況を把握し、家庭事情や職員の体調にも配慮した職場環境や条件の整備に努めている。定期的に年2回と必要時には個別で面談をするなどして、悩みを一緒に考えたり、目標を立てたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日常的に、個々の職員とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図ることで、各職員の力量や意欲等を把握し、全職員の協力を得て、積極的に研修等に参加したり、資格取得に努めている。各職員が目標を持って、挑戦できる環境や支援、体制をつくっている。今年度は、グループ別研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部の懇談会等で他事業所と話をして、お互いに情報交換等を行っている。また、見学の受け入れを行う等、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談があった時点で、管理者や職員が契約前に必ず本人に会いに行っている。そこで、本人自身から要望や不安等を聞き、本人が入居に際して安心できるように、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が安心して、契約に臨めるように、最初の相談から契約に至るまで、家族自身の不安や要望等を受け止めるようにしている。何度でも面談を行い、疑問や不安を解消し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態や家族の状況、介護力等を聞き、すぐに入居ではなく、同一法人内の居宅介護事業所や他事業所への紹介も行っている。その時、本人や家族にとって、最適なものを提案できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は「待つ」という姿勢を大切にして支援をしている。各入居者の「できること」に目を向け、一覧表等を更新し、能力に合わせて参加できるような働きかけ方等を工夫している。入居者の方から「何か手伝うことはないか」と声をかけられることもあり、お互いに「ありがとう」と伝え合うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	事故や著しい変化があったときはすぐに連絡し、状況説明や、今後の支援の仕方について話し合っている。また、年2回以上の家族面談を行い、日常的にも、面会時や受診時に本人の様子を伝えている。家族懇談会では、現場職員も参加し、絆づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人、知人が面会に来やすい雰囲気を作るなどして、馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めている。今年は、地元の祭りに出掛けたり、家族が出演した番組をテレビで鑑賞した。また、家族や友人との外出が安全にできるように支援している。携帯電話を使用して、友人との交流を継続されている入居者もいる。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問する機会が得られたり、家族の協力も得ながら行きつけの美容院を継続している方もいる。家族との外出も行われており、食事や買い物をはじめ、身内の方の墓参りや法事等を通じた交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	居室で過ごす時間も大切にしながら、入居者同士が一緒の時を過ごすことができるように努めている。行事等の写真を廊下に飾ったり、ベランダで家庭菜園や花の栽培を行い、日々のコミュニケーションにも役立てている。また、必要に応じて職員が間に入り、他入居者との楽しい関わりが持てるように支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了した方の近況を把握したり、退居後も相談や支援に努めている。看取りを行なったご家族が野菜等を持って来てくれたり、ホームに立ち寄っていただけたりすることもある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で、「食べたい物」「行きたい場所」などを聞き、メモ等の記録に残すなどして入居者の意向の把握に努めている。気づきを職員間で共有できるように、意見交換ページの記入を推奨し、活用している。会議ごとに入居者の状況や対応を検討し、実践につなげている。年一回、個別意向調査を行い、希望や意向を把握するよう努めている。	利用者のアセスメントを職員全員が意識するような取り組みが行われている。職員による利用者の気付き等を毎月複数回行われている会議等で共有及び検討する取り組みが行われている。また、アセスメントについては、２４時間シートを活用した取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを個々に合わせて作成しており、全職員でアセスメント表を見直す機会を作っている。また日常の会話の中から、何気ない一言を聞きもらさず、家族が来られた時には確認などをし、本人の生活歴や暮らし方へのこだわりや思いをより深く把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活をできるだけ詳しく記録したり、日常での気づきを意見交換ページで伝えるように努めている。また、会議で支援方法について、検討したり、全職員で共有するなどして、その方に合った支援方法を工夫するよう努めている。今年度は、24時間シートの更新を入居者担当が行い、全職員で回覧をし、入居者の現状を把握、共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの見直し時期に、家族面談を行い、家族とも現状と今後についての情報を共有して、次期介護計画を作成している。会議でモニタリングやアセスメントの状況について意見を出しあい、次期介護計画に反映している。今年度は、24時間シートとケアプランを連動させている。	介護計画は6か月で見直しているが、ケアチェック表等の活用や利用者の状況に合わせた随時の見直しも行われている。また、日常的にも職員間で介護計画と日常の支援内容をチェックする取り組みを行っており、現状に合わせた介護計画の内容につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	本人の思いや状況が伝わるような記録を書くように努めている。今年度は、記録やチェック表等の目的を明確にしながら取り組んでいる。また、記録等の言葉の受け取り方等の意見をその都度、職員間で伝え合うことも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	各入居者や家族の状況の変化に合わせ、支援方法を工夫するように努めている。家族などにも気軽にﾆｰｽﾞを伝えられるよう、「無理だと思う前に、まずは相談してください。一緒に考えましょう。」と普段から声かけをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入して、行事には積極的に参加している。法人内での教室への参加を促し、作品を地域の文化祭に出展している。散歩や買い物等に行くことで、季節を感じたり、地域の方と交流したりして、本人が豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。今年度は認知症カフェの運営やまちかど運動教室に参加したり、市の図書館で本を借りる等、資源を活用しながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診時に日常の様子などをまとめた記録を作成して、入居者それぞれのかかりつけ医とも円滑なコミュニケーションがとれるよう努めている。夜間や時間外でも対応してもらえる協力医療機関の医師との関係も築いている。受診結果や薬の変更等は、業務日誌に記入して、確実に情報を共有している。今年度も家族からの主治医変更の相談があり、助言している。	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われているが、利用者の今までのかかりつけ医の継続も行われており、ホームでも情報提供等の必要な支援が行われている。また、併設事業所と合わせて複数の看護師が勤務しており、利用者の医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	普段から入居者の健康状態を観察し、通常と違う様子や疑問、不安があれば看護職員に相談している。体調が不安定な入居者は、看護職員が確認を行った上で、入浴や清拭を行っている。薬の変更等、ミスがないように口頭と業務日誌での申し送りを徹底している。また、看護職員が研修で得た知識を、介護職員にわかりやすく周知し支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この1年あまり、入院や救急搬送はなかった。入院があった場合には定期的に病院へ訪問し、医師や病院との情報交換を行なっている。救急搬送を行う際に、職員も同行し情報を伝えるなど迅速な対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族とこまめに情報交換を行ない、「ホームで家族を看取ってもらいたい」と家族に思ってもらえるような信頼関係や環境整備、家族の不安の軽減に努めている。毎年、内部研修で、看取りへ向けての心構え等を学んでいる。現在、家族と何度も話し合いを重ねながら、本人の意思を尊重し、最期まで本人のペースで生活ができるように終末期を支援している。	ホームでの看取り支援も行われており、協力医との連携を深めながら、ホームで最期を迎えた方もいる。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いを重ね、利用者や家族の意向に合わせた支援に取り組んでいる。また、看取り支援に関する職員研修等も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修で緊急時の対応等を学んだり、会議や研修で色々なパターンを想定してのシミュレーションを行っている。必要時には個別に看護職員から急変時の対応の仕方等を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に数回は様々なパターンを想定し、訓練等を行っている。今年度も運営推進会議で、実際の訓練を見学してもらい、地域の方々にも理解を深めてもらえるように努めた。また地域の防災訓練にも参加し、地域にも災害時に協力を依頼している。今年度は福祉避難所の協定を結んだ。内部研修で、備蓄品や非常食のリスト、保管場所を実際に確認して、防災意識を高めている。	併設事業所とも連携しながら避難訓練を実施している。事前予告を行わない避難訓練も実施しており、実践的な取り組みが行われている。地域の方にも訓練に立ち会ってもらう取り組みや、水や食料等の備蓄品の確保が行われている。また、新たに「福祉避難所」として協力する取り組みが行われている。	ホームでは、併設事業所とも連携しながら、様々な災害を想定しながら避難訓練を実施している。新たに「福祉避難所」の取り組みも始められており、ホームの災害に関する継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議や研修等で、言葉づかいや声のかけ方、関わり方などについて話し合い、常に尊厳を意識した支援に努めている。 日々の関わりの中でも、声のかけ方や関わり方が適切かどうか、常に意識できるように職員同士で声をかけ合うように努めている。今年度は、内部研修でスピーチロックを含めた不適切な対応について現在の気づきや疑問に思う言葉を挙げ、適切な関わり方や方向性を確認した。	職員一人ひとりが専門職として意識し、利用者の立場に立って考え、行動することを心掛けるような働きかけが行われている。職員指針等の振り返りも行いながら、職員の意識向上につなげる取り組みも行われている。また、言葉遣い等をチェックし、職員の接遇につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々のアセスメント表を活用して、現在の状態を全職員で把握し、自己決定しやすい声かけを工夫している。本人が話しやすい環境や話をしっかりと聞く時間を作ったり、入居者の表情などから読み取る工夫をしている。本人が「やりたい」と思えるような関わり方や働きかけ方ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大体の1日の流れはあるが、入居者が自分のﾍﾟｰｽで生活できるように支援している。その日の勤務者で活動したい内容を打ち合わせる時間を作り、その都度確認できるようにホワイトボードを活用するなどして、充実した余暇活動や家事活動ができるようにしている。24時間シートや家事活動、余暇活動一覧表を活用し、個々のペースや特性を把握し、配慮できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個別の身だしなみチェック表を作成している。毎朝と必要時に、洗面、整髪、髭剃りなどの声かけや介助を行っている。今年度は、身だしなみチェック表の形式を見直し、より細かく確認している。また、個々に合った身だしなみセットや置き場を作った。日常の服を選ぶ際にも、その方の好みを取り入れるように努めている。また、行事のときには、お化粧をするなどして、おしゃれを楽しめる機会を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々のできる力に着目した家事活動一覧表を作成して、一緒に食事作りや盛り付け等を行っている。1ヶ月の昼食の献立表を食堂に掲示したり、ベランダで栽培した野菜を食材に使ったりして、食事への関心を高めている。今年度は、毎月ホットプレートでの献立を取り入れ、五感を使って調理を楽しんでいる。また、好みに合わせて朝食にパンを用意して選べるようにしている。	利用者の好みや嗜好等に配慮しながらメニューを考え、利用者もできることに参加している。月1回の「ホットプレートの日」を設け、利用者と一緒に調理やおやつ作りを楽しむ機会がつくられている。また、身体状態に合わせた食事形態の提供や、職員も一緒に食事を行う取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量と水分量を把握し、体調等に応じて、食事内容や分量を考えている。また必要時には栄養補助食品も活用している。水分量を確保するために、個々の状況に応じて、好みに配慮して提供したり、居室にお茶を常備したり、トロミや寒天等を使用している。食器等も工夫して、本人の力を最大限活用して、安全に摂取できるように支援している。食事形態に違いがあっても、できる限り、見た目にも配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個々の状態に合わせて、声かけや介助をしている。歯科の訪問診療で、ケアの仕方についての助言を受け、日常の支援に活かしている。食事前には、口腔体操や歌ったりして、舌の運動等を行い、嚥下が少しでもスムーズにできるように工夫している。今年度は、口腔体操の種類を増やすなどして楽しくできるように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	チェック表で排泄パターンを把握し、できるだけ、トイレで排泄できるように支援している。介助が必要な入居者にはさりげない声かけやトイレ誘導をしている。トイレに行く回数が多い入居者に対して、状況を把握し、医療との連携を行っている。パッドや失禁パンツを利用し、安易に紙パンツやオムツを使用しない支援を行っている。	利用者全員の排泄記録を残すとともに、利用者の状況に合わせたより細かな記録も行われている。職員間で情報交換を行い、利用者に合わせた排泄支援や排泄状態の維持、改善につなげる取り組みが行われている。また、協力医との排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤服薬の判断、確認手順等を見える化している。下剤の調整が必要な入居者は、個別の排便チェック表を作り、細かく記録をしている。また、排便の確認は、プライバシーを尊重しながら行っている。朝食にヨーグルト等の排便を促す食材を提供し、できるだけ自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人ひとりの意思や希望を尊重して、ゆっくりとリラックスして入浴ができるように環境を整えている。体調不良時には、シャワー浴や清拭、入浴剤を使っての足浴でも対応している。拒否の強い方には、声かけの内容を工夫したり、時間や日を変えて声かけをするなどしている。入居者が気持ちよく入浴できるよう、職員間で意見交換を行っている。	利用者は週2～3回の入浴をしているが、毎日の入浴の準備が行われていることで、希望等に合わせた回数にも対応している。入浴を拒む方には、職員間で検討を行い、声かけやタイミング等をみながら入浴を促す取り組みが行われている。また、状況に合わせた職員複数での対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の好みの明暗や温度調節などにも配慮して、入眠や休息しやすい環境づくりに努めている。日中も、体調等に配慮し、必要に応じて居室での休息を勧めている。食堂で過ごしたい入居者には、浮腫み防止のため、足を挙上するなどの工夫をしている。シーツ類や寝具は定期的に洗濯したり干したりして、清潔、快適に休める環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の医療ファイルで、服用している薬や効能等を閲覧できるようにしている。確実に服薬できるように、個々の服薬方法を一覧表にしている。薬の変更があった場合は全職員で共有し、変更前後の体調や状況の変化を記録に残すようにしている。個人の状態に合わせて、服用に寒天ゼリーを使用することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事活動や余暇活動の「できること」を個別で一覧表にし、2ヶ月に1度、更新をしている。個人に合わせた楽しみがもてたり、能力が発揮できるような環境を整えたり、できるための工夫をしている。作品をホーム内の壁に飾り、作成後も楽しめるようにしている。ハーモニカなど昔の趣味を披露したり、おやつ作りを行ったり、プランターで花を育てたりして一緒に楽しむ機会を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望や体調に合わせて、散歩に行ったり、好みのおやつや食材の買い物に行ったり、市内の民俗資料館や公園等への外出支援も行っている。また家族との外出や外食もできるように支援している。今年度は、図書館で定期的に本を借りるなど、月ごとに意識的に外出できるような工夫を行っている。	季節や天候等にも合わせて外出の機会がつくられているが、ホームの外に自販機を設置し、日常的な外出につなげる工夫も行われている。年間を通じて外出の機会がつくられており、季節等に合わせた外出行事が行われている。また、個別の意向等に合わせた図書館等への外出も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出や買い物の際の会計時に、入居者がお金の受け渡しをできるように努めている。日常的な現金の所持を希望される入居者については家族とも相談して、安心して所持できる環境作りに努めている。個人で使う物は、できるだけ入居者本人と一緒に買い物に行き、購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者によっては、携帯電話を使用して、好きな時に家族と会話ができるように、充電を確認するなどの支援を行っている。毎年、年賀状を作成し、家族や親戚などにも出せるように支援している。家族との食事会時には手作りのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄと一緒に、入居者本人が書いたﾒｯｾｰｼﾞｶｰﾄﾞを手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室温はこまめに確認をして、エアコンの調整などをしている。季節に合わせた壁面を一緒に作り、廊下に展示している。食堂や畳部屋では、心地よい音量でテレビを見たり、音楽を聴いたり、図書館で借りた本を自由に見たりできるなど、過ごしやすい環境作りに努めている。また、整理整頓、清掃を行ない、入居者が安全に気持ちよく過ごせるように配慮している。	フロアーは広めの空間が確保されている他にも、通路に天窓が設置されていることで、採光にも優れた生活環境となっている。リビングに畳ルームでがあり、利用者の中には腰かけて過ごしている方もいる。また、建物1階の玄関ホールには、利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中は食堂や畳部屋を常に開放してあり、自由に新聞や広告、本を見たり、数人で腰かけて談話している。時には懐メロの音楽を流し、口ずさむなどの場面がみられる。共有スペースでも個々の生活や意向を大切にして、自由に過ごせる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真や自分が作った作品、自宅から持ってきたなじみの品を飾るなどして、安心して過ごせる居心地の良い居室づくりに努めている。入居者の状態によっては、安全に配慮した居室や環境づくりにも力を入れている。今年度はさらに居室内確認の一覧表を活用し、居室内の整理や清掃状況の確認と必要に応じた介助を確実に行えるように努めている。	居室内が広いことで、利用者の中には、家具類をはじめ、思い出の品々や好みの物等の持ち込みが行われており、利用者や家族の意向に合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドは持ち込みであるが、ホームで電動ベッドを確保していることで、身体状態等に合わせた対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ｱｾｽﾒﾝﾄ（ｾﾝﾀｰ方式）や記録、会議等で情報収集し、安全で自立した生活を送ることができるように、環境整備に努めている。移動の際に危険がないように、廊下や共有スペースの物の置き場所等に配慮をしている。また、入居者の状態の変化に対応した環境整備にも努めている。内部研修で、危険予測について学び、安全な環境づくりや支援に努めている。		